



茶園で改植の仕事を学ぶ参加者

おいしいお茶が飲めますように

■改植（お茶植え）体験

お茶に興味を持ちお茶のファンを増やそうと、売茶坊まるよの主催によるお茶の改植体験が3月18日から20日、布引原地区の茶園で行われました。参加者は茶農家の指導のもと、「みなみさやか」という名前の茶の木を、おいしいお茶が飲めるようにと、一本一本丁寧に植えていきました。今回参加した皆さんは、茶の木の成長を見守る「みなみさやか見守り隊員」に登録され、約4年後に、当日植えた茶の木からとれたお茶を、自宅で味わうことができます。

夜間での避難経路を確認

■地震・津波夜間避難訓練

県の津波対策推進旬間に合わせ、地震・津波夜間避難訓練が、3月6日に市内で行われ、8,271人が参加しました。

訓練は、震度7の巨大地震が発生し、大津波警報が発表されたとの想定で実施され、午後7時ごろにサイレンと同報無線で避難を呼びかけました。

市民の皆さんは、懐中電灯で足元を照らしながら、津波避難ビルや津波避難タワーの津波避難施設など、各地区の避難場所へと一斉に避難し、災害に対する危機意識を高めました。



懐中電灯で足元を照らしながら階段を上る皆さん

日本の心であるお茶を全国にPR

■お茶親善大使の橋幸夫さん記念コンサート

牧之原台地周辺5市（牧之原市、御前崎市、掛川市、菊川市、島田市）のお茶親善大使である歌手の橋幸夫さんが3月20日、新茶季節を前に県内外にお茶PRしようと、菊川市文化会館アエルでコンサートを開催しました。

コンサート後は、橋さんと5市の市長のもとに川勝平太静岡県知事が激励に訪れ、お茶への思いや取り組みなどについて話し合いました。

橋さんは「お茶は日本の心。アピールを頑張っていきたいです」と意気込みを話しました。



主催者と橋さん、5市の市長のもとに訪れた川勝県知事

最期のときを自宅で過ごしたい

■ゆずり葉の季節

高齢社会へ向け自分の生き方や、家族の絆について考えるきっかけとなってもらおうと、劇団たんぼぼと各市町が協力し公演する、厚生労働省推薦作品「ゆずり葉の季節」が3月15日、い〜らで行われました。

作品は「最期のときを自宅で過ごしたい」と考えた末期ガンの母を家族で看取る物語です。

来場者は「自分の生き方のヒントになりました。住み馴れた家で幸せな最後を迎えたいです」と話しました。



坪池教育長から教育委員会表彰「少年少女ノーベル賞」を受ける受賞者

努力した功績をたたえる

■教育委員会表彰／山崎こども教育賞

学業や文化活動、スポーツなどで優れた成績を残した児童生徒や団体などをたたえる「牧之原市教育委員会表彰」と、公益財団法人山崎こども教育振興財団主催の「山崎こども教育賞」の表彰式が3月5日、い〜らで行われました。

市教育委員会表彰は、教育の各分野で県大会1位またはそれに準ずる成績があった26人、3団体が受賞。さらに、その中でも全国大会などで好成績を収めた6人には、「少年少女ノーベル賞」が贈られました。

また、山崎こども教育賞では、あいさつや掃除など、他の児童生徒の模範であると評価された27人が受賞しました。

世界で1台だけのバス運行

■バスを彩る絵を描こう

牧之原市初のスクールバスに小学生が描いたイラストをラッピングしようと3月4日、ワークショップ「バスを彩る絵を描こう」がい〜らで行われ、抽選で選ばれた児童45人が参加しました。

講師である市内在住のイラストレーター岩本陽子さんの指導の下、児童らは「海」「サーファー」「茶畑」「自転車に乗った人」とそれぞれの担当に分かれ、絵を描きました。

参加した児童は「自分たちの絵が描かれたバスに乗れるのが楽しみ」と話しました。



岩本さんに描き方を聞きながら絵を仕上げる児童たち



学校を卒業し地域に根付いた看護を目指す八木さん

看護師として新たな一歩

■組合立静岡県中部看護専門学校卒業式

組合立静岡県中部看護専門学校（焼津市）の卒業式が3月4日行われ、35人が卒業しました。

原宏介校長は「向上心を忘れることなく、自覚と誇りを持ち、患者さんに信頼される看護師になってほしい」と卒業生に言葉を送りました。

卒業した八木華怜さん（細江）さんは「将来は高齢者を中心に、地域に根付いた看護を行っていききたい」と抱負を語りました。

卒業生の35人のうち4人が、榛原総合病院で看護師として働いています。

ズームイン！
カシャ！！



広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎0052 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp